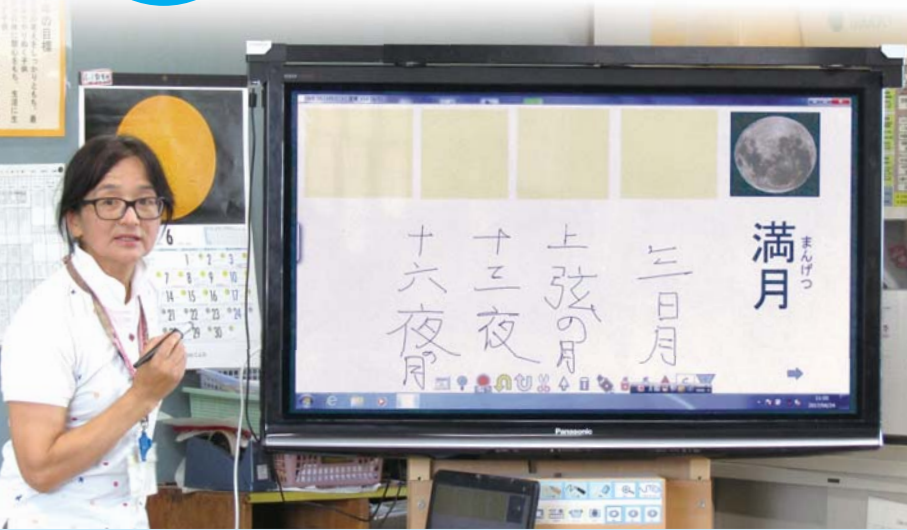


導入事例
てれたっち

様々な視覚効果が加わった魅力ある教材で、より理解が深まる授業を実践！



電子黒板化ユニット「てれたっち」の導入から約2ヶ月で、電子黒板アプリ「白板ソフト」も含めた多彩な使い方を実践し、学習スタイルの充実を図っている調布市立石原小学校。低・中・高学年それぞれの担任の先生が、日々、児童と向き合っている授業の実態をご紹介します。

※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

教材づくりのコストが大幅削減

東田先生：我々小学校の教員は、授業用の様々な教材を作成します。例えば、教科書や参考資料の一部分を拡大して見せたい時など、大判のカラー出力紙を用意すると、場合によっては一枚数千円かかることもあります。その点、「てれたっち」を使えば、取り込んだ部分をエリア指定するだけで簡単に拡大表示できるので便利です。



動きをプラスした視覚に訴える授業は特に効果的

片柳先生：手軽ということで、書画カメラを使う先生は多いです。その場合、教科書や作品などを表示させるために使われるのですが、「てれたっち」なら、画面に表示させるだけでなく、自由に拡大させるといった視覚効果を簡単に加えることができるのが大変魅力的ですね。「動きを取り入れた視覚効果」が、児童の興味を倍増させてくれるようです。

東田先生：「てれたっち」と普通の黒板を併用して授業を進めることが多いのですが、その場合、モニターには資料を映し、黒板は児童に開放して書かせるようにすれば、時間を有効に使える点でもいいですね。

「白板ソフト」で楽しい教材が簡単に作れる！

片柳先生：パワーポイントで動きを取り入れた教材を作ることは可能ですが、教材作成に相当なエネルギーがかかりますし、柔軟性がありません。それを解決してくれたのが「白板ソフト」です。どの食材が、何の栄養素を持っているかという食育をテーマにした教材を作り、タッチペンで簡単にイラストを移動させて実演したところ、児童たちはたいへん興味を示してくれました。

長澤先生：私は一年生の担任ですが、特に低学年は絵が動いたり、自分の教科書が大きくなって目の前に表示されたりすると、教材を身近に捉えてくれるようです。このような児童の反応は、そのまま集中力にも結び付き、動きだけではなく、色の理解や教科書の中のポイントを指示する際にも効果的です。



「てれたっち」を使った授業の広がり期待

長澤先生：今は、前の授業を振り返り、事前に準備した教材で新しい授業を行っていますが、以前の教材も含めて授業のまとめでも使えるようになれば、授業全体の理解をさらに深めることにもつながり、学習の幅が広がります。タブレットなど、様々な周辺機器とつなげて使えば復習のスタイルも変わり、一層便利になると思います。

東田先生：「てれたっち」を使った授業を行っているのは、児童たちの方に体を向けることができ、皆の顔を見ながら授業を進められることです。つまり、児童の反応が判断しやすくなり、自分自身もその授業を振り返る際にメリットを感じます。

片柳先生：私は、チョーク一本で素晴らしい授業ができる先生ほど、ICTを使いこなせば鬼に金棒だと思います。このことは、是非皆さんに知っていただきたいですね。新学習指導要領にもある「主体的、対話的で深い学び」というコンセプトにも、「てれたっち」は力強くサポートしてくれると思います。

取材にご協力いただいた先生



片柳 木ノ実 先生 (4年生担任)



長澤 弘範 先生 (1年生担任)



東田 兼一 先生 (6年生担任)

白板ソフトで独自のユニークな教材を作り、趣向を凝らした授業を展開。

特に低学年は動きのある教材に興味津々。生徒の集中力向上を実感中。

教科書のページをスキャンするなど、ポイントを押さえた授業で生徒の心を掴む。

CLIENT DATA

導入学校 / 東京都調布市立石原小学校
所在地 / 東京都調布市 開校 / 1959年

